

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100228		
法人名	有限会社 なんくる		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム たけとんぼ		
所在地	沖縄県那覇市国場911-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100228-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が協力し、洗濯物たたみや洗濯物干し、庭の掃除などを積極的に行なっている。訪問看護ステーション ピースさんと連携し、自立支援を活用して近隣散歩やドライブなどを実施している。また、本人の能力に応じて数字並べやパズル、ちり箱づくりなどにも取り組んでいる。それ以外にもほぼ毎日、テレビ体操に合わせてリズム体操をしたり、カードを見ながら言葉遊びをしたりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から近く交通の便の良い環境に立地している。市街地ではあるが、広い駐車場に隣接しており見通しが良い。事業所の玄関前は広い庭を確保しており利用者の散歩や外気浴に活用している。事業所では、3食メニュー作成・買い物・調理と手作りの食事を提供しており、昼食については職員も利用者と同じメニューで食卓を囲んでおり、事業所の理念である利用者の日々の生活を考えることを実践している。玄関前の庭の芝生について、職員から人工芝への張替が要望され実現した。地域包括支援センターをはじめ、近隣の関係者とのネットワークが形成されており、イベントや認知症カフェへの利用者の参加に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と理念の共有を行ない、実践できるよう努めている	理念は、開所時に代表者・職員と話し合い策定した。利用者一人一人の歴史・人間性・生活に着目した理念となっており、日々の支援に反映するように、事務所に掲示し、職員の意識付けを行っている。支援で迷ったとき、気になる際は、理念に立ち返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	包括の認知症カフェや、近隣の事業所のイベントなどに参加しているが、地域ボランティアとの交流や夏祭りなどの開催ができていない	ボランティアグループ「昭和観光」が、定期的に事業所を訪問し、歌会などを実施し利用者との交流を行っている。地域包括支援センター開催「ほっとうえまCAFÉ」「ゆんたく公園deゆんたく会」や「グループホームおてだま」等近隣の認知症カフェの開催時には、ケアマネと利用者が状況に応じて参加し地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他事業所などと合同で行っていた認知症の勉強会の開催の目途ができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を行ないながら、対面にて開催し、色々な意見を参考にしながらサービスの向上に努めている	令和4年度より対面での開催を行っている。地域代表者については選定中である。知見者については、近隣のグループホームの管理者に依頼している。議事録は、管理者変更に伴い様式を変更した。毎回の議事録をファイリングし、玄関先に設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所などに行く機会がある場合や、電話やメールなどでも質問などに丁寧に回答してもらっている	運営推進会議には、市の担当者が参加しており、相互の情報交換の場として活用されている。入居待機者についても情報共有し、意見交換を経て優先順位を踏まえ入居に繋げている。その他、介護保険の認定時、法令変更時、研修開催等、必要な情報のやり取りやアドバイスを得ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示したり、運営推進会議でも話し合いをしている。	身体的拘束等適正化対策検討委員会が設置され3か月に1回委員会を開催し、運営推進委員会で報告している。指針も策定され、研修会を実施することにより身体拘束の定義の確認や現状の点検を行っている。 現在の委員構成が、職員のみで構成されている。外部専門家等の登用が望まれる。	身体的拘束等適正化対策検討委員会の委員が、職員のみで構成されている。運営推進会議後に開催する等、外部の人材を登用した委員会構成が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時やトイレへの誘導時に痣などがいないか観察をしたり、普段と利用者の様子が違わないかの確認をしたりしている。	虐待防止についての取組について、指針を定め研修会を開催している。研修会は、グループホーム連絡協議会や法人全体の研修会に管理者やケアマネ等が参加し、報告書を作成している。毎月の職員会で報告し職員全員での共有・浸透を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明点がないか、確認をしながら行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やプランの更新時に意見交換をしたり、運営推進会議に参加もしてもらっている。	家族が同行する病院受診時等に家族の意見や要望を聴きとっている。利用者の敬老祝いを開催したいという要望について、自宅での開催が困難なため、居室での実施を人数の制限と感染対策の徹底により実現した。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員とのミーティングや代表との管理者会議などを開催し意見交換をしている。	管理者は、毎月一定金額の小口現金を預かり、食費や雑費等、必要に応じて支出している。レクリエーションや外出時等の臨時の支出についても可能な範囲で職員・利用者の要望に応じている。庭の芝生の管理やテラス、デッキの修繕など、施設整備については、法人に要望し庭の人工芝への張替を実現した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場づくりができるように努力しているが、人員不足のために職員に負担がかかっている状況がみられる	管理者自身も子育てをしながら勤務を継続してきた。子供同伴の勤務や急な休みの対応等、子育て環境に配慮した職場づくりを行っている。人員不足のため有給取得や残業軽減が課題となっている。又、職員の健康診断について年1回の実施は確認できたが、夜勤者の年2回の実施に課題がある。	夜勤者の年2回の健康診断について早急に実施することが望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内や社外の研修に参加できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加したり、近隣のグループホームの認知症カフェや、祭りに参加したりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションをしっかりと図り、話が聞けるような関係を築けるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに声かけを行ない、困りごとや不安などがなく気軽に話ができる関係になれるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような対応が本人にとって一番最適な支援か本人や家族と話し合いをしながら決めていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビを観ながら話をしたり、洗濯物干しをしたりと協力をしながら信頼関係を築けるよう努めている、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や状態の変化などを家族に連絡しながら、家族と本人にとって最適な支援ができるように努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	支援をしていきたいが実施できていない	コロナ禍で、家族や関係者の面会に制限を設けていた。5類移行に伴い、徐々に面会を再開している。教会の信者だった利用者に対して、関係者が訪問したり、ハローウインの時期など近隣の保育園児の訪問機会を設けている。3月からは、ボランティアの受入れも再開し、昭和観光さんの歌会を定期的で開催している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを取りやすい席の配置ができるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に行ったり、状態に変化がないか情報を聞いたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に合わせて訪問看護ステーションとも連携しながら散歩をしたりドライブに行ったりと外出希望などに添えるよう支援に努めている	入居時やモニタリングに向けての定期的なアセスメントに基づき、利用者・家族の要望を確認している。外出希望については、訪問看護や自立支援、ディサービスを活用している。買い物の要望のある利用者について、毎月買い物支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞きながら今までのサービスが持続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる範囲で生活ができるように努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医や家族、本人の意見を参考にしながら職員と話をし、本人に適した支援ができる介護計画が作成できるように努めている	ケアマネは、利用者の初回受診に同行し、情報を収集している。家族については、面会時やメール・電話を活用し情報収集を行っている。収集した情報や職員からの情報を職員会議で共有し、介護計画の作成を行っている。作成した介護計画には職員が閲覧しサインする箇所を設けている。モニタリングは6カ月を目途に行い、急変時等は、適宜対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送り、職員の聞き取りをし参考にしながら、介護計画の見直しに活かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人や家族の要望に応じていけるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣散歩をしたり、近くのスーパーに職員と一緒に買い物にいけるように支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と受診に行ける利用者はそのままかかりつけ医に、無理な方たちは認知デイや訪問診療を活用しながら適切な医療を受けられるように努めている	3名は訪問診療を受診し、6名は以前からのかかりつけ医を継続されている。同行した家族へ情報提供書を預け、受診後は状態の聞き取りなど対応を行っている。入居後初めての診察時には、ケアマネジャーが必ず同行し関係性を築き、情報を共有できるよう努めている。受診後の状態や薬情などは、申し送りノートやグループラインを使って職員へ伝達、周知を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所持に気になる点のある利用者については、爪切りや剥離の処置などをしてもらったり、相談にのってもらったりしている		
32		○入退院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院先の地域連携室と連絡を取り、情報交換を行い、早期に退院ができるように支援している		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、事業所では看取りを行わない旨を伝えている。介護度や医療面の支援が増えてきた段階で家族には系列の特養などへの移動の検討を進めたりしている	契約時に本人、家族に対して「急変時や重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、看取りに関しては行えず、医療機関や他の施設への転居について同意を得ている。利用者の介護度や高齢化もあり、職員は社外研修へ参加して他事業所などの看取りについての事例発表会を聞いたり、社内研修を受講するなど知識を深めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	剥離などの簡単な処置の仕方は管理者や訪問看護師を通して指導しているが、救命講習への参加はできていない	職員は、緊急時対応について流れを共有しており、緊急連絡網が整備されている。まず管理者、訪問看護師へ連絡、応急処置を行い、状況を確認、訪問看護師の指示に従う。ヒヤリハット報告や事故報告を作成し、事故防止の為の対策を職員で検討し、職員会議で再検討を行っている。当日参加できない職員へも書面やグループラインを利用して周知を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を行っているが、近隣の協力は得られていない。	火災による避難訓練は、年に2回昼夜想定で行われているが、消防への届出は確認できたが、実施時の職員の役割分担や実施結果後の検討会などが不足している。備蓄品リストは昨年の外部評価後に作成されているが、消費期限の記載が無く、水や食料品など備蓄量が不足している。感染症については、厚労省の業務継続計画を参考に作成中である。	台風などの自然災害に備え、停電時の対策やトイレ使用などの生活用水の備蓄なども含めた備蓄品リストの見直しを希望する。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドやプライバシーを尊重した支援ができるよう努めている	入居時に利用者、家族から写真の掲示等については同意を得ている。職員は、入職時の研修で利用者、家族のプライバシーの保護について認識を深め、ちょっとした言葉遣いなどに気を付けるよう心がけている。個人情報に関わる資料については、鍵のかかるキャビネットに保管しているが、事業所の運営規程や運営推進会議の議事録などの閲覧が確認できなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	できる範囲内の希望に対しては支援できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、どのような活動ができるか確認しながら、1日が過ぎて行けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回散髪支援を行ったり、家族の了解のもと、利用者と一緒に洋服の買い物に行ったりしている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事に合わせた食事を提供したり、誕生日などに外食支援を行ったりしている	3食とも職員が手作りで温かい食事を提供している。定期的に管理者が食材をまとめ買いついて、専用の冷凍庫を準備し、職員は食材を見ながら献立を考えて調理している。職員は利用者と一緒に同じ食事を食べ、利用者は、カレーやハンバーグ、タコライスなどのメニューを好まれ、好き嫌いもなく、刻み食、ミキサー食の方も含め、ほとんどの方が完食している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた食事の形態、量を職員間で共有し食事の提供ができるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が歯磨きをした後に拒否をしない利用者に関しては、職員で仕上げ磨きを行なっている。訪問歯科も検討中		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導を行ないトイレでの排泄ができるように支援している。	全体的に介護度が低く3名が布の下着、ほとんどの方がリハビリパンツを着用、自立や手引き歩行でトイレで排泄されている。排泄チェックシートを利用した定期的なトイレへの案内で、自立に向けた支援と自尊心に配慮した支援に注力している。日中の活動や軽体操の効果で夜間は、中途覚醒が少なく熟睡され、良い睡眠が保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態に気をつけ、豆乳なども飲用し自然に排便が出るように支援している。それでも排便に結びつかない利用者は、主治医や訪問看護師に相談し、便秘薬を活用している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は大まかに決めてはいるが、本人のタイミングに合わせて翌日に変更したり、午前中の中の入浴が無理そうなら午後から入浴をしたりと、なるべく週3回は入浴に入れるように対応している。	週に3回、午前中に入浴支援を行っているが、女性の職員が少ないため、本人、家族の同意のもと異性介助を行ったり、本人の希望を重視して午後の中の入浴の対応をしている。自立して入浴される方は、注意して見守り支援をしている。トイレからお風呂へ移動できるような構造になっているので、拒否のある場合などトイレへ案内して浴室へも行ってもらえるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員での活動時間も考慮に入れつつ、本人の部屋で休みたいという訴えに対してはなるべく対応ができるよう努めている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあれば、グループラインや申し送り帳などを通して、共有できるように努めている	昨年の外部評価後に服薬マニュアルが見直され、新たに作成されているが、その後も飲み忘れなどの誤薬が発生している。薬の変更時の職員への周知方法や服薬についてのフローチャート作成など「見える化」を行い、さらに与薬時のダブルチェックの強化、職員同士の声掛けなど丁寧な服薬支援に期待する。	飲み忘れなどの誤薬が発生している。いずれも大事には至っていないが、今後の対策を検討し再発防止に努め、服薬マニュアルの内容の充実と研修を行うなど、職員への注意喚起に期待する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	訪問看護師の支援も借りながら、散歩に行ったりドライブに行ったりしている。また、シーツ干しや庭掃除、洗濯物干したり畳んだり役割づくりも行なっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足などもあり、利用者全員を連れての外出が難しくなっている。通所の送迎時に一緒に連れて行ったり認知症カフェやなげーま市などに数名にわけて行ったりしている。	職員不足もあり大勢での外出は難しいが、少人数でも食材の買い出し時に一緒に行くなど外出の機会を創出している。調査当日も包括で行われた認知症カフェへ外出し、おやつを楽しむ姿を見ることができた。玄関先のテラスでお茶を飲んだり、近所への散歩、庭の手入れや水かけなどもそれぞれのできる範囲で参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身がお金を管理することは難しいため、お金の所持はさせていない。本人が希望した際に家族に確認し一緒に買い物に行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援をしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの利用者が居室にこもることなく、フロアにて過ごされている。YouTubeなどで好きそうな動画を流して視聴したり、パズルなどをして退屈をしないように支援している	天井が高く明るく風通しの良いリビング兼食堂には、壁に利用者のちぎり絵などの作品やイベント時の写真が飾られている。リビングで過ごされる方が多く、大型テレビでは、好きな歌手のYouTubeを楽しんだり指先や脳の活性化効果が期待されるジグソーパズルに取り組んだりしている。職員は定期的な清掃や換気など環境整備を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに設置しているソファーに座り談話しながらテレビを観たり、食事するときも話をしている様子がみれる		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人から要望があれば、テレビや危険物以外は持ち込みは大丈夫なので、空気清浄機や扇風機、ラジオやダンスなど持参している利用者もいる	一間筆筒位の大きさの造り付け筆筒があり、かなり収納力があるため、室内は整理整頓され、定期的に職員が清掃を行い環境整備にも気を配っている。利用者が持参したハンガーラックにつまずいて転倒する恐れがあったので、家族へ撤去してもらい、職員のアイデアで壁にコルクボードでフックを取付、好みの服をかけられるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内に手すりを設置し、安全に移動ができるように支援している。		